

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	講師	渡邊 明宏
最終学歴	学 位	専門分野
名古屋市立大学大学院 人間文化研究科博士後期課程 単位取得退学	修士（人間文化）	幼児教育・保育

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

まじめに、楽しく

【目標】

保育者養成の質の向上に貢献する。

【方針】

保育の職責と専門知識、楽しさの体得

【計画（方法）】

実践を取り入れ、保育職へのイメージや理想につなげる。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

基礎演習Ⅰ／教育実習事前及び事後の指導（幼稚園）／教育実習Ⅰ（幼稚園）／サービス・ラーニング実習Ⅰ／幼児と人間関係／保育の計画と評価／保育者論

（後期）

基礎演習Ⅱ／サービス・ラーニング実習Ⅱ／教職実践演習（幼・小）／保育内容（人間関係）／保育内容（言葉）／子ども家庭支援論／幼稚園実習理解

○教育方法の実践

授業では書き込みができるプリントを配布し、スライド、板書、テキストの要所を受講生が整理しながら書きまとめ、復習や課題において役立てられるようにした。映像教材を適宜利用し、知識の定着を図った。また、保育実践のための遊びやその模擬指導の機会を設け、遊びの知識・スキルの向上を図った。模擬指導に際しては、保育教材研究、それに基づく指導計画の立案、事後の省察の一連を意識できるように配慮した。

○作成した教科書・教材

各科目における配布プリント

○自己評価

授業アンケートの結果は概ね平均値を上回っていたが、内容や方法については、さらに充実を目指したい。科目のテーマや内容が、目前の学外実習において、また日々の保育においてどのように役立てられるか、保育者としての専門性や心構えにつながるか意識できるような授業を心がけたいと考える。

II 研究活動

○研究課題

保育における遊びやその指導、保育者養成における教育

○目標・計画

【目標】

伝承遊びの本質、子どもの育ちに対する貢献への理解を継続して深め、保育教材としての意義や位置づけ、指導の方法を探求する。

【計画】

文献や先行研究を総合し、保育者養成における教育内容や子育て支援への還元を行う。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・立花直樹・安田誠人 監修「こどもまんなか社会に活かす 子ども家庭支援論」、共著、第7章 こどもまんなか社会に活かす地域の社会資源、晃洋書房、2025
- ・立花直樹・渡邊慶一 監修「こどもまんなか社会に活かす 子育て支援」、共著、第2章 保護者との相互理解と信頼関係の構築、晃洋書房、2025
- ・花井忠征・野中壽子 編著「新保育ライブラリ 保育内容 健康 [第3版]」、共著、第4章4節 伝承遊びの楽しさを伝えよう・第11章 保育内容健康の計画と評価、北大路書房、2022
- ・民秋言・安藤和彦 ほか編著「新保育ライブラリ 幼稚園実習」、共著、第1章 日々の指導案はどのようにつくられるのですか・いろいろな保育形態について教えてください・第3章 幼小連携について教えてください、北大路書房、2020

（学術論文）

- ・保育所における幼児の身体活動量と運動能力の関係、共著、発育発達研究 第90号、2021
- ・ゼミナールにおける学生の主体性と学び合い、共著、幼児教育文化研究 第5号、2020
- ・身体表現の「動き」と保育における援助に関する一考察、単著、ユマニテク短期大学紀要 第2号、2019
- ・手作りボールの特性と保育者養成における製作の意義、単著、幼児教育文化研究 第3号、2018
- ・保育における身体表現の指導に関する考察、共著（筆頭）、ユマニテク短期大学紀要 創刊号、2018
- ・保育における鬼ごっこ指導に関する考察、単著、小田原短期大学紀要 第47号、2017

（学会発表）

- ・保育教材としての伝承遊びによる学生と子どもの交流実践、単著、日本教材学会東海・近畿・北陸支部令和6年度研究会、2025年3月、名古屋柳城短期大学
- ・保育内容・教材としての伝承遊びと保育者の指導に関する一考察、単著、日本教材学会第35回大会、2023年10月、福山大学（オンライン）

（特許）

- ・なし

（その他）

- ・コマ回しに挑戦！、きらきら北勢版2020年1-2月号
- ・「くう・ねる・あそぶ」そして「だす」、きらきら北勢版2018年11-12月号
- ・子どもとのふれあいを大切に「いっぽんばしこちょこちょ」、きらきら北勢版2018年9-10月号

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

日本保育学会／日本発育発達学会／日本教育医学会／日本保育者養成教育学会／日本教材学会

○自己評価

保育・子育て・社会資源に関する知見をまとめ、2冊のテキストの各章として執筆することができた。保育については、領域 人間関係にまつわるテキストの1章について、継続して執筆中である。またゼミにおける学生の実践から、伝承遊びや学外実習につらなる取り組みとしての学内実践のメリットについて考察し、学会報告することができ、こうした知見をもとに進学イベントにおいて保育志望者に向けて保育の魅力や遊びの意義を伝えることができた。以降も保育、保育教材としての伝承遊びについて深めて系統的にまとめ、発信・還元していきたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

校務の理解・遂行、学修環境の向上

【計画】

学生の声に傾聴し、チームワークを意識して積極的に参画する。

○学内委員等

学生委員会／IR推進委員会／サービス・ラーニング委員会／SLFL検討WG／卒業式・入学式検討WG／保育特講／就職セミナー（幼稚園）／高校ガイダンス・進学イベント

○自己評価

着任年次につき、他の教職員に教えていただきながら校務にあたった。大学祭に向けた学生会との打合せにも加わることができ、学生主体の行事のあり方など気づきが多かった。本年度の気づきや理解を、次年度以降の校務、学生の学修・生活のシステムの向上に役立てていきたいと考える。また保育志望者に伝えるイベント等にも継続的に参画し、研究や実践をふまえた保育の魅力発信につなげていきたい。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

子どもの育ち、保育への還元

【計画】

教育・研究の成果を積極的に発信する。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

・名古屋市立大学人間文化研究所 市民学びの会 理事

○自己評価

大学祭「キッズ広場」の学生の実践に関して、伝承遊びのための準備・運営面からの助言等により、地域の子どもへの遊び提供に携わった。今後こうした機会を積極的に設け、教育・研究と地域・社会とのつながりを意識して貢献していきたいと考える。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

幅広い知識の修得、伝承遊びスキルの体得・向上

VI 総括

引き続き、保育の現場に貢献でき、また保育・教育の魅力を伝えられるような研究を遂行し、成果として発信していきたい。本年度は何事も他の教職員に教えていただきながら携わったことをとおして、チームワークの大切さを実感した。

本年度に得られた理解や気づきを活かし、学生の将来への希望に寄り添うことを常に念頭におき、次年度の教育・研究・大学運営に積極的に取り組み、社会貢献にもつなげていきたいと考える。

以 上